

令和7年度 学校評価

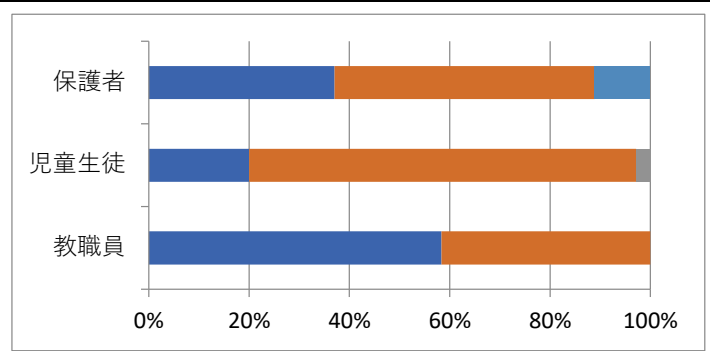
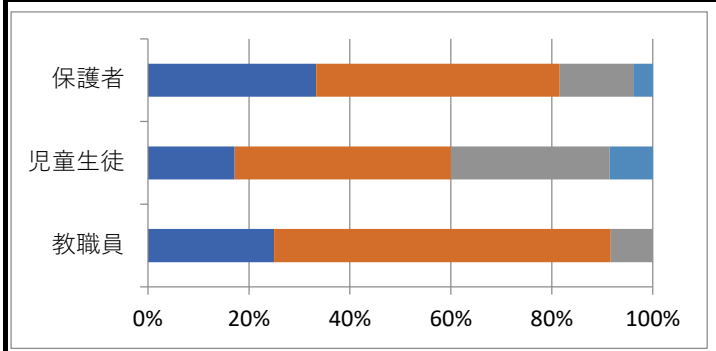
■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ そう思わない
 ■ わからない

| (1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進 | | 考察 |
|--|--|--|
| 1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 | 2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進 | |
| 学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。 (感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にできる心、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など) | 学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。 | 1 肯定率は非常に高く、学校の取組が評価されている。生徒も概ね肯定的だが、「どちらかといえばそう思う」の回答も多くあり、取組の意義をより実感できる工夫が必要である。今年度から強歩会の開催や、特別活動の研修を行い授業改善を進めるなど、具体的な取り組みも始めている。 2 主体的な学びに関する評価は高いが、一方では「どちらかといえばそう思わない」「わからない」も目立つ。授業改善や学習方法の選択肢を増やし、生徒が自分で考え取り組む場面をさらに充実させることが課題である。 |
| | | |
| (1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進 | | |
| 3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進 | | |
| 学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりすることの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など) | | 3 本校では、生徒会活動やきまりの見直し、総合の時間での地域学習、ナイスライなど、学校生活の改善や地域社会への貢献的活動の機会を確保している。地域や学校生活をよりよくする取組は評価されているが、30%程度の生徒は実感が伴っていない現状が見られる。生徒会活動や地域連携の機会を増やし、社会参画の意識をさらに高めていく工夫が求められる。 |
| | | |
| (2) こども一人一人を尊重した教育の推進 | | |

4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。

学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。



4 学習方法やペースを選べる授業は一定評価されているが、「どちらかといえばそう思わない」「わからない」と答えた生徒が半数と多く、実感に課題があり改善の余地がある。ICT活用や柔軟な学習設計を進め、個別最適化をさらに推進する必要がある。
5 対話を通じた学びは評価されている。今年度は校内研修を充実させることで教員側の意識も高まっている。協働的な活動を授業に組み込み、他者の意見を生かす力を育む工夫に今後も取り組んでいきたい。

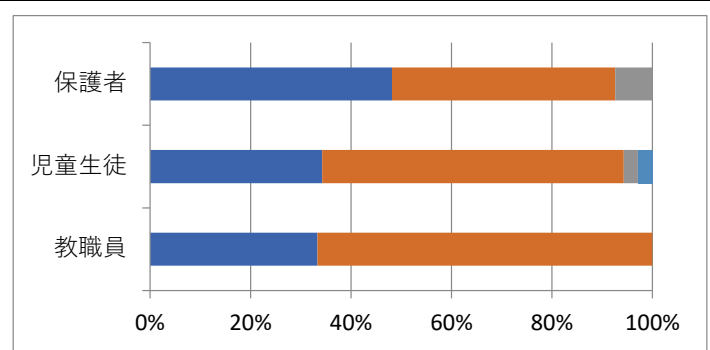
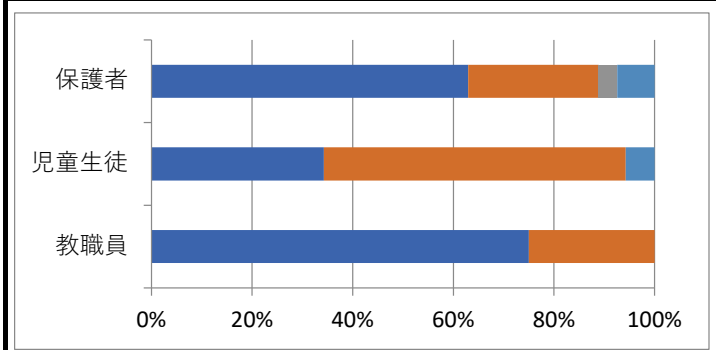
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進

6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実

7 インクルーシブ教育の推進

学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。

学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。



6 温かな雰囲気や支援体制は高く評価されている。今後は、支援の具体的な方法を生徒にも周知し、誰もが安心して学べる環境づくりをさらに強化することが重要である。
7 本校には、知的学級と自閉症・情緒学級があり、通常学級との交流及び協働学習が行われている。多様性を尊重する雰囲気は評価されているが、生徒や保護者の理解度には差があるようにも見受けられる。異なる背景を持つ仲間と協働する機会を増やし、互いを尊重する文化をさらに醸成することが課題である。

(3) 最適な教育環境の整備

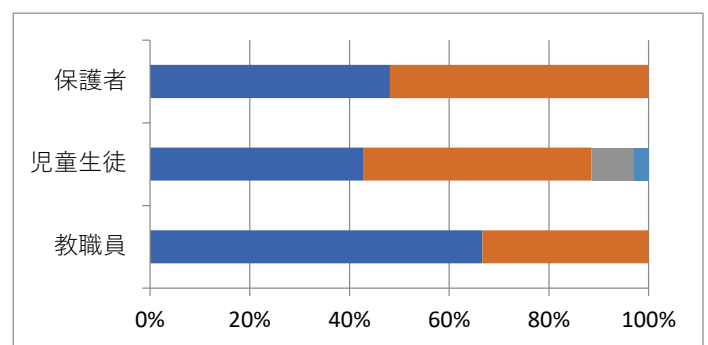
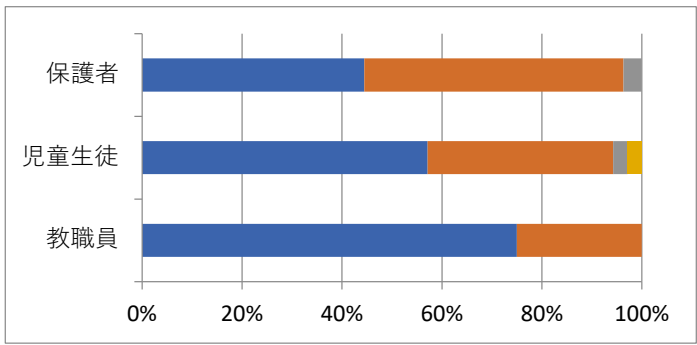
8 安全・安心な園づくりの推進

9 地域や家庭と連携した教育環境の整備

学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。

学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。

8 本校は山間地に所在することから予想できない事故も懸念される。安全教育や防災対策は高評価で、保護者の信頼も厚い。更に取組の「見える化」や体験型学習を通じて理解を深める工夫が必要である。
9 金峰山清掃活動やリサイクル活動など地域の学校への関心も高く、行事や教育活動等に対する理解度や協力する意識も高い。地域や家庭との協力は評価されているが、生徒の認知度に課題がある。地域との連携を生徒に実感させる仕組みづくりが求められる。

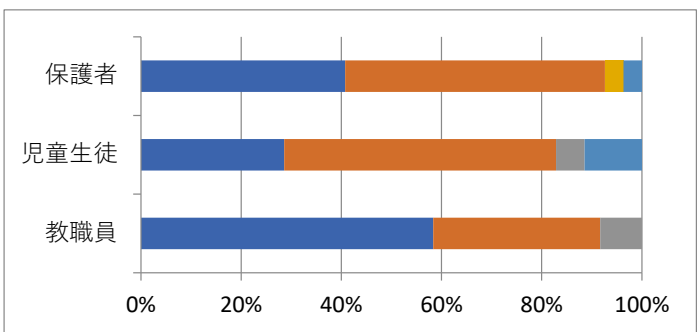


(4) こどものいのちと権利の擁護

10 こどもの最善の利益を守る環境づくり

学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。

10 本校では、生徒全員との担任による面談、SCとの教育相談、保護者を含めた通知表の受け渡し時の面談など、相談しやすい機会を確保している。相談しやすい雰囲気は一定評価されているが、否定的な意見や「わからない」という意見も一部見られることから、相談窓口の周知や生徒や保護者の意見反映の仕組みを明確化することが重要である。



来年度の具体的な取組について

今年のアンケートでは、学校の取組は全体的に高く評価されている。特に「安全な環境づくり」や「心と体の健やかな成長」は強みである。一方で、「自分で学びを進める力」や「社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力」、「学習の方法やペースを自分で選んだりしながら学ぶ授業づくり」では、もっと工夫が必要という声が見られる。そこで来年度は、①授業で選べる課題や話し合いの場を増やし、ICTを使って個別最適な学びの推進に努める。②地域や保護者と一緒に取り組む活動を増やし、子どもたちが「つながり」を実感できるようにする。③相談しやすい環境を整え、こどもの意見を学校運営に生かす仕組みをつくる。④安全教育は、避難訓練や防災学習を体験型にし、子ども自身が「自分の命を守る力」を身につけられるようにする。これらを通じて、子どもたちが主体的に学び、安心して過ごせる学校づくりを進める。本校は、少人数であるがゆえに生徒の学習や生活面の指導において、

教師によるきめ細かな対応ができています。また、保護者や地域からの協力も期待できる環境にある。芳野の生徒が持つ「良さ」を、さらに伸ばすことを第一に、生徒が本当に考えている「願い」や「思い」を分析し、それを自分たちの力で実現し具体化する経験の場とすることで、子どもたち一人一人の「社会的自立」につなげていきたい。

小 中 学 校 関 係 者 評 価

- ・地域の行事への参加だが、例えば校区の「みちくさ館」などは多くのイベントをされている。一緒に手伝ったりすることでイベントの啓発や広報にもつながるのではないかと。地域行事が単なるルーティーンになるのではなく、参加の意義まで伝えると、さらに発展していくのではないかと思う。
- ・勉強が得意な生徒が他の生徒にも教え、互いに教え合う。そのような学習形態が充実していくと良いと思う。
- ・アンケートをただするのではなく、生徒も何をしたか忘れているときもあるので、補足説明しながらアンケートを実施すると数値も変わっていくのではないかと。
- ・新しい行事なども行われ、充実していると思う一方、PTAの在り方も考えていく時期に来ている。執行部の負担もあるし、これから芳野地区の生徒が減少していく傾向にある。PTAの協力があって学校行事が円滑に行われている面もあるので、持続可能なPTA活動を考えていかねばならない。